

グローバル人材 育成の取り組み

平成24年度は、前年度の「ASAHI HEADS Project」事業を継承、学校経営予算を重点枠で獲得して、グローバル人材の育成に一層重点を置いた「英語で理数」事業を実施。また、英語スピーチコンテスト、ディベート大会、数学オリンピックや物理チャレンジ等の全国大会、各種国際交流プログラムへの参加など、グローバルなコンクールや行事に積極的に参加した。

英語で理数

学問・研究は、世界を舞台に英語を共通言語として展開されている。グローバル人材の育成には英語による授業経験が欠かせないと考え、数学および理科の授業を英語での実施に取り組んだ。数学では「 $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明」を、理科では「等加速度直線運動に関し、台車の動きを紙テープに記録して加速度を求める実験」を、本校の英語指導講師や岡山大学の留学生を補助者としてチーム・トレーニングで実施した。いずれも1年生を対象とした授業であったが、生徒アンケートでは約6割の生徒が十分理解できたと回答するとともに、英語と日本語との表現によって受ける印象の違いなどに関心を持ったこ

とが記されており、更なる学習意欲の喚起につながったことがうかがわれる。



授業実践に加え、上野健爾氏（京都大学名誉教授）による数学講義や、菅滋正氏（大阪大学大学院名誉教授、本校昭和39年卒）による科学講義などを通じて、将来、国際的に活躍できる科学者、研究者としての資質向上も図った。

全国高校生英語ディベート大会

平成24年12月、第7回全国高校生英語ディベート大会が千葉で開催された。参加校は全国の高校64校、各地区の大会を勝ち抜いた精鋭揃いである。本校も県大会以降、資料収集、調査を行い、立論内容の検討を重ね、スピーチ練習を繰り返し全国大会に臨んだ。論題は県大会と同様「Japanese universities should start their academic year in September」であった。第1試合で灘高との対戦、善戦したが惜しくも勝利を得ることはできなかった。その後、対戦相手を変え、結果、5試合で3勝2敗、

出場64校中26位という成績で大会を終えた。

その中で、本校はMake Friends賞を受賞した。これはフェアプレーで試合に臨み、他の模範となる高校を全国から1校選出するという特別賞である。本校生徒の正々堂々とした戦いぶりが認められたことを意味するものであり、大変誇らしいことである。



ふりが認められたことを意味するものであり、大変誇らしいことである。

イギリス・サイエンスカレッジ 授業体験

世界で活躍する科学技術系人材の育成に資するため、イギリス理系重点校での授業体験プログラムを実施。期日は平成25年3月10日・22日、21名の生徒が参加した。

以下は参加生徒の感想である。

今回のプログラムに参加し、印象に残ったことを紹介します。まず、日常生活です、特に食事は衝撃的な出来事にも遭遇しました。文化の違いは想像以上でしたが、それを理解しようとするのは重要であり、また、とても興味深いことです。「経験することの大切さ」を知りました。

2つめはイギリスの高校生です。私たちが一緒に活動したMonk's Walk Schoolの生徒たち



は本当に学ぶ意欲が強く、好奇心旺盛でした。Monk'sの生徒たちは「Are there any questions?」と先生に聞かれる前から手を挙げています。私は彼らの積極性に驚きを感じつつも、彼らと楽しい時間を共有することができました。

3つめは英語です。英語は好きな教科でしたが、最も力不足だと感じたのは聞く力でした。ホストブラザーの軽い冗談はあまり理解できませんでした。これからの自分の課題は、いかに使える英語を身につけていくかということですね。

そして、ケンブリッジ大学のキャンペンディッシュ研究所で、日本人の研究者の方のお話を聞くことができたのは大きな収穫でした。数多くのノーベル賞受賞者を輩出してきた研究所を訪れ「海外で様々な国の人と一緒に

に仕事をしたい」という思いも一層強くなりました。日本から遠く離れた地で、見ず知らずの人たちと過ごす・・・この経験は私のものの方見方や考え方を本当に大きく広げてくれました。今回の研修での多くの出会いを大切にしながら、世界中のたくさんの人と実際に語り合い、活動できる仕事に就きたいという夢に向けて努力していきます。



ケンブリッジ大学にて山中教授とともにノーベル医学生理学賞を受賞したジョン・ガードン博士と



Monk's Walk Schoolの生徒と実験



日本文化紹介書道に興味津々一名前を漢字で書いてあげた